

フィリピン気象局地上気象観測メンバーが訪問されました（2022/11/25）

テーマ：気象観測

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

11月25日（金）にフィリピン気象局地上気象観測メンバー7名が、独立行政法人 国際協力機構（JICA）気象技術協力プロジェクト「フィリピン国高品質な気象観測・警報情報能力強化プロジェクト」の一環として、当研究所を訪問されました。JICA の技術協力プロジェクトは、専門家の派遣、研修員の受入れ、機材の供与という3つの協力手段（協力ツール）を組み合わせ、一つのプロジェクトとして一定の期間に実施される事業です。

当研究所では、気象・海洋・宙空災害研究分野の山崎 剛 教授（本務先：理学研究科 地球物理学専攻）が「Environment problem of meteorological observation（気象観測の環境問題）」と題し、気象要素の長期的な変動や空間分布を調べる上で、気象観測所の移転や周辺環境の影響、測器の変遷や検定方法の変更などを考慮することの重要性について、実例を交えて講演を行いました。また、最近の取り組みとして過去の災害事例の解析や気候変動の解析に役立つ日本域の領域再解析について紹介しました。講演後には活発な質疑応答が行われ、関心の高さがうかがえました。また広報室の中鉢 奈津子 特任准教授が、当研究所の概要と展示について説明し、参加者からは、大変充実した訪問になったとの感想をいただきました。フィリピンは日本と同様に、台風、洪水、地震、火山等の自然災害多発国です。今回のご訪問が、フィリピンでの気象観測に役立てられることを願います。



山崎教授による講演



記念撮影

文責：山崎剛（気象・海洋・宙空災害研究分野）、広報室